

## 日本・アジア／米国間コンテナ貨物の荷動き動向について

(2016年5月〔往航〕速報値)

(公財) 日本海事センター 企画研究部

\* 文中の%は、寄与度とシェア以外で特に記載がない場合は、対前年同期比を表します。

## I. 往航（アジア 18ヶ国・地域→米国）の荷動き

- (1) 2016年5月のアジア（18ヶ国・地域）から米国へのコンテナ荷動き量は、0.4%増の131.1万TEUと3ヶ月ぶりの増加となった。4ヶ月ぶりの130万TEU台となるとともに、1-5月の累計は3.4%増の609.5万TEUと昨年実績を上回っている。
- (2) 国別では、日本（8.0%減）、韓国（3.5%減）、中国（0.8%減）などが減少となったものの、台湾（3.9%増）、ベトナム（18.7%増）、インド（0.4%増）などが増加となったことにより、全体では微増。地域別では、ASEAN（10.2%増）、南アジア（1.1%増）は増加。
- (3) 日本は、1位（2015年の年計ベースの各国・地域の品目別順位、以下同様）の「自動車部品」（6.3%減）と2位の「車両機器及び部品」（15.2%減）が2ヶ月連続の減少、3位の「タイヤ及びチューブ」（24.5%減）が3ヶ月連続の減少となったことなどにより、8.0%減の4.6万TEUと2ヶ月連続の減少。
- (4) 最大の出荷国である中国は、1位の「家具及び家財道具」（2.1%増）が2ヶ月連続の増加となったものの、2位の「繊維及びその製品」（5.8%減）が2ヶ月ぶりの減少、3位の「一般電気機器」（5.2%減）が3ヶ月連続の減少となったことなどにより、0.8%減の85.7万TEUと2ヶ月ぶりの減少。香港は3ヶ月連続の減少となる2.5万TEU（7.5%減）。
- (5) 韓国は、1位の「自動車部品」（4.7%減）、2位の「一般電気機器」（17.0%減）及び3位の「タイヤ及びチューブ」（2.3%減）が2ヶ月連続の減少となったことなどにより、2ヶ月連続の減少となる6.7万TEU（3.5%減）。
- (6) 台湾は、2位の「自動車部品」（4.5%増）、3位の「家具及び家財道具」（6.1%増）及び4位の「床材・ブラインド等のプラスチック製品」（0.5%増）が3ヶ月ぶりの増加となったことなどにより3ヶ月ぶりの増加となる5.6万TEU（3.9%増）。
- (7) ASEANは、インドネシア（0.2%減）以外が増加となったことにより、全体では3ヶ月ぶりの増加となる19.3万TEU（10.2%増）。ASEAN最大の出荷国であるベトナムは、1位の「家具及び家財道具」（21.1%増）が2ヶ月連続の増加、2位の「繊維及びその製品」（8.9%増）及び3位の「履物及び附属品」が3ヶ月ぶりの増加となったことなどにより、3ヶ月ぶりの増加となる7.6万TEU（18.7%増）。
- (8) 南アジアは、パキスタン（0.8%減）以外が増加となったことにより、全体では2ヶ月ぶりの増加となる6.7万TEU（1.1%増）。南アジア地域最大の出荷国であるインドは、1位の「繊維及びその製品」（15.1%増）、3位の「セメント、石、砂、粘土等」（3.7%増）及び4位の「家具及び家財道具」（26.0%増）が2ヶ月ぶりの増加となったことなどにより、2ヶ月ぶりの増加となる4.7万TEU（0.4%増）。
- (9) 品目別では、「家具及び家財道具」（寄与度0.6%増）、「コンピュータ及び半導体」（同0.5%増）、「履物及び附属品」（同0.1%増）などが増加。
- (10) 船社別では、1位（2015年の年計ベースの船社別順位、以下同様）のEVERGREENが3ヶ月連続の減少となる14.0万TEU（3.6%減）、2位のMAERSKが3ヶ月ぶりの増加となる12.0万TEU（5.5%増）、3位のCMA-CGMが3ヶ月連続の減少となる10.3万TEU（3.8%減）。日本船社ではK LINEが3ヶ月連続の減少となる7.1万TEU（8.4%減）、NYKが3ヶ月連続の減少となる5.4万TEU（1.8%減）、MOLが3ヶ月ぶりの増加となる5.5万TEU（4.6%増）。

表-1 2016年5月:積国・地域別荷動き

国・地域	往 航				
	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	シェア (%)	1-5月の 累計(TEU)	前年同期比 (%)
18ヶ国・地域 合計	1,310,996	0.4	100.0	6,094,906	3.4
日本	45,747	▲8.0	3.5	259,217	2.5
韓国	66,923	▲3.5	5.1	328,790	4.9
台湾	55,664	3.9	4.2	258,376	1.3
中国+香港 計	882,495	▲1.0	67.3	4,008,446	2.4
中国	857,207	▲0.8	65.4	3,889,835	2.8
香港	25,288	▲7.5	1.9	118,611	▲10.2
マカオ	34	39.2	0.0	146	43.4
ASEAN 計	193,483	10.2	14.8	902,842	9.5
シンガポール	8,882	2.0	0.7	42,185	0.2
フィリピン	11,271	5.9	0.9	54,454	2.7
マレーシア	25,109	5.2	1.9	117,951	11.6
インドネシア	31,797	▲0.2	2.4	150,841	1.0
タイ	36,203	10.0	2.8	172,191	10.3
ベトナム	76,389	18.7	5.8	345,399	15.4
カンボジア	3,470	15.1	0.3	18,305	0.3
ミャンマー	362	135.7	0.0	1,515	102.3
南アジア 計	66,649	1.1	5.1	337,090	1.1
スリランカ	3,211	6.7	0.2	17,494	▲1.9
バングラデシュ	7,797	4.9	0.6	40,661	5.2
パキスタン	8,196	▲0.8	0.6	38,945	▲2.9
インド	47,444	0.4	3.6	239,989	1.4

(注) 集計対象は、日本、韓国、台湾、中国、香港、マカオの他、ASEANのうちシンガポール、フィリピン、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの8ヶ国、南アジアではインド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュの4ヶ国、合計18ヶ国・地域を対象としている。また、速報値ベースでの発表のため、後に若干の修正が加わる場合がある。

## II. 往航の品目別荷動き

- (1) 往航荷動き量を品目別にみると、荷動きを牽引している住宅関連 3 品目（「家具及び家財道具」、「建築用具及びその関連品」、「床材・ブラインド等のプラスチック製品」）の合計荷動き量は、3 ヶ月ぶりの増加となる 29.0 万 TEU（2.7%増）。品目別でみると、「家具及び家財道具」は 3 ヶ月ぶりの増加となる 19.5 万 TEU（4.0%増）。「建築用具及びその関連品」は 3 ヶ月連続の減少となる 3.8 万 TEU（0.8%減）、「床材・ブラインド等のプラスチック製品」は 2 ヶ月連続の増加となる 5.7 万 TEU（0.8%増）。
- (2) 「繊維及びその製品」は 3 ヶ月連続の減少となる 13.5 万 TEU（0.8%減）。
- (3) 「一般電気機器」は 3 ヶ月連続の減少となる 9.9 万 TEU（6.2%減）、「テレビ・ビデオ等の映像・音響製品」は 3 ヶ月ぶりの増加となる 3.5 万 TEU（4.6%増）。
- (4) 「自動車部品」は 3 ヶ月連続の減少となる 5.1 万 TEU（4.6%減）、「タイヤ及びチューブ」は 2 ヶ月連続の減少となる 3.9 万 TEU（0.7%減）と自動車関連品目が低迷。

表-2 往航:2016年5月の品目別荷動き(上位10品目)

品目名	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	寄与度 (%)	シェア (%)
1. 家具及び家財道具	194,533	4.0	0.6	14.8
2. 繊維及びその製品	134,743	▲0.8	▲0.1	10.3
3. 一般電気機器	99,331	▲6.2	▲0.5	7.6
4. 床材・ブラインド等のプラスチック製品	57,164	0.8	0.0	4.4
5. 自動車部品	50,567	▲4.6	▲0.2	3.9
6. おもちゃ	40,225	1.2	0.0	3.1
7. タイヤ及びチューブ	38,893	▲0.7	0.0	3.0
8. 建築用具及び関連品	38,496	▲0.8	0.0	2.9
9. 履物及び附属品	36,379	3.4	0.1	2.8
10. コンピュータ及び半導体	35,657	21.2	0.5	2.7

### Ⅲ. コンテナ運賃の動向

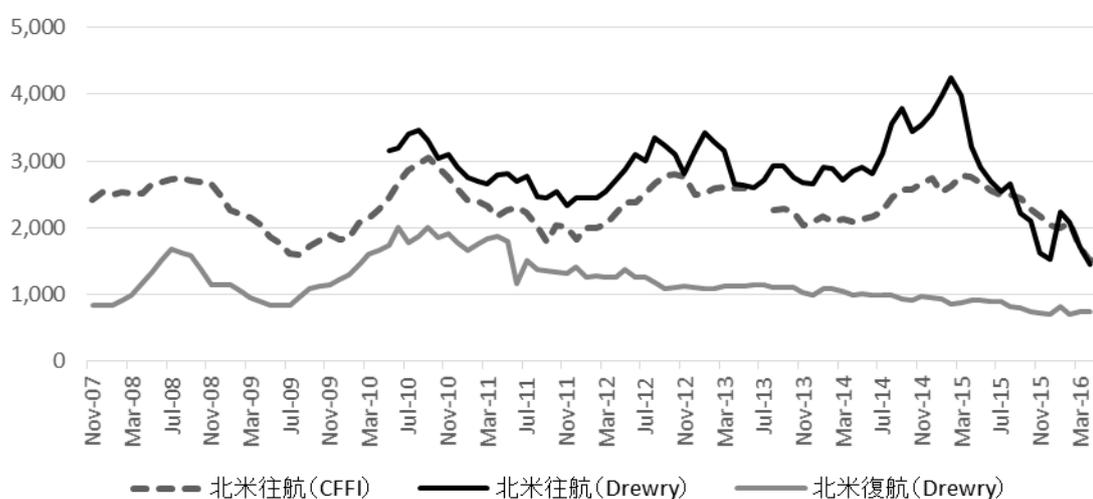
(1) 北米往航：

運賃は 2016 年初の修復で一時上昇したものの 3 月以降低水準での横ばいが続く。

(2) 北米復航：

Drewry によると運賃（ニューヨーク→塩田間）は 14 年 7 月以降下落傾向を示し、16 年 4 月は 740 ドル/TEU。

図-1 北米航路における運賃指数の推移（単位：ドル/TEU）



参考資料

表-3 米国内地域別(西岸/東岸/ガルフ)荷動きの構成比の推移

米国内地域 集計年(月)	往 航			復 航		
	西岸揚 (%)	東岸揚 (%)	ガルフ揚 (%)	西岸積 (%)	東岸積 (%)	ガルフ積 (%)
2012年	69.9	28.0	2.1	65.3	32.0	2.7
2013年	69.6	28.3	2.1	64.8	32.4	2.8
2014年	68.4	29.3	2.3	62.7	34.0	3.3
2014年1月	70.7	27.4	1.9	63.7	33.2	3.1
2月	65.8	31.7	2.4	64.6	32.4	3.0
3月	69.3	28.4	2.3	64.5	32.6	2.9
4月	70.4	27.4	2.3	64.8	32.5	2.7
5月	68.7	29.0	2.2	64.2	32.7	3.1
6月	70.7	27.3	2.1	62.8	33.8	3.4
7月	67.5	30.1	2.4	61.2	35.3	3.5
8月	68.0	29.6	2.4	64.0	32.6	3.4
9月	68.4	29.3	2.3	61.1	35.3	3.6
10月	67.1	30.5	2.4	61.7	35.1	3.3
11月	67.4	30.4	2.2	58.2	38.2	3.6
12月	65.9	31.7	2.4	59.7	36.6	3.7
2015年1月	60.1	36.2	3.7	53.0	42.0	5.0
2月	60.8	35.9	3.3	58.5	37.1	4.3
3月	65.6	32.0	2.5	56.9	38.6	4.5
4月	65.2	31.5	3.3	58.3	37.6	4.1
5月	65.1	31.9	3.0	60.1	35.5	4.5
6月	64.8	32.8	2.4	58.0	38.6	3.4
7月	64.0	33.3	2.7	60.9	35.3	3.8
8月	67.1	30.5	2.4	63.1	33.7	3.3
9月	64.9	32.5	2.7	57.9	38.1	4.0
10月	64.3	33.3	2.4	60.6	36.1	3.4
11月	66.8	30.8	2.3	59.0	37.5	3.5
12月	64.7	32.1	3.2	59.3	36.2	4.5
2016年1月	65.8	31.4	2.7	56.9	38.9	4.2
2月	64.1	33.0	2.9	59.8	35.9	4.3
3月	60.9	36.2	2.9	60.3	35.4	4.4
4月	65.6	31.5	2.9			
5月	65.8	31.6	2.6			

表-4 船社別輸送量シェア(%)

順位	往航船社名	2013年	2014年	2015年	2016年1-5月	最近の推移
1	EVERGREEN	9.66	10.23	10.42	10.06	3ヶ月連続の減少
2	MAERSK	10.50	10.03	8.79	9.29	3ヶ月ぶりの増加
3	CMA-CGM	6.60	6.41	7.73	7.87	3ヶ月連続の減少
4	HANJIN	8.12	7.62	7.37	7.02	3ヶ月連続の減少
5	MSC	6.28	6.53	6.74	7.40	2ヶ月連続の増加
6	COSCO(N)	6.75	6.58	6.64	6.60	3ヶ月ぶりの増加
7	APL/NOL	7.55	7.00	5.79	5.88	3ヶ月ぶりの増加
8	K LINE	5.56	5.57	5.77	5.55	3ヶ月連続の減少
9	YANG MING	4.97	5.01	5.21	5.09	2ヶ月連続の増加
10	OOCL	4.46	4.72	4.72	4.94	2ヶ月連続の増加
11	NYK	4.25	4.57	4.61	4.51	3ヶ月連続の減少
12	CHINA SHIPPING	4.89	4.38	4.57	3.91	3ヶ月連続の減少
13	MOL	4.52	4.59	4.50	4.40	3ヶ月ぶりの増加
14	HYUNDAI	5.76	5.23	4.50	4.30	3ヶ月連続の減少
15	HAPAG-LLOYD	3.82	4.42	4.12	4.39	2ヶ月連続の増加
	OTHERS	6.30	7.12	8.51	8.79	2ヶ月連続の増加
	TOTAL	100.00	100.00	100.00	100.00	

(注)：単位は%。順位は2015年を基準とした。

## (参考) 荷動きに関連する米国の経済指標・動向

### 2016年6月作成 米国経済: 回復基調を維持するも不安材料有り

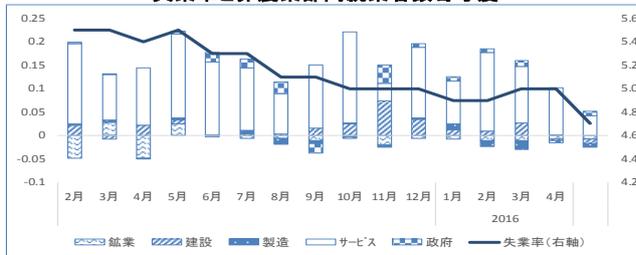
- ◆2016年第1四半期GDP(改定値)は0.8%に上方修正。民間投資(住宅除く)および政府支出を除いて上方修正された。
- ◆5月の失業率は4.7%に下降。非農業部門全体では3.8万人雇用増。鉱業、建設業、製造業はマイナスに。
- ◆2014年12月以降、鉱工業生産指数及び設備稼働率は下降基調。
- ◆ガソリンおよび先行指標であるWTI価格は2014年8月以降急落していたが、2016年3月を底に上昇に転じている。
- ◆2016年4月の住宅着工・許可件数は、2か月ぶりのプラス、中古住宅販売は2か月連続のプラスに。
- ◆4月の小売売上高は前月比1.3%増。自動車関連およびコア商品の売上が伸びた。一方、住宅・建設関連は2か月連続のマイナスに。
- ◆2014年10月28日から10月29日に開催された連邦公開市場委員会(FOMC)の定例会で量的緩和(QE3)修了決定。
- 15年12月15-16日の会合でゼロ金利解除決定。1~5月は金利据置。次回FOMC定例会は6月14-15日。

#### GDP成長率



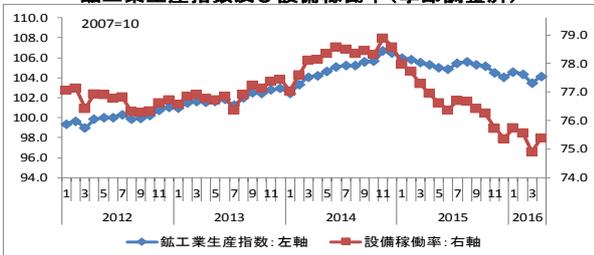
(米国商務省経済分析局)

#### 失業率と非農業部門就業者数寄与度



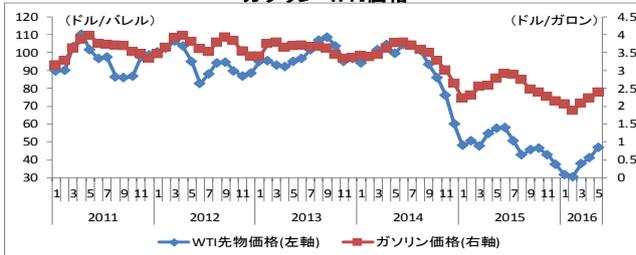
(米国労働統計局)

#### 鉱工業生産指数及び設備稼働率(季節調整済)



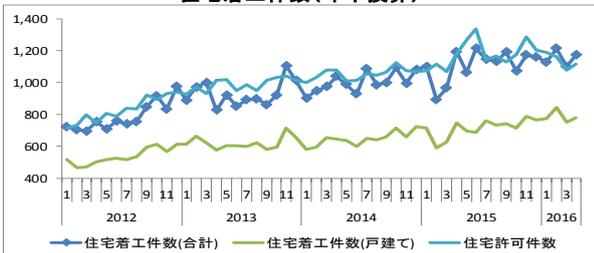
(米国連邦準備理事会)

#### ガソリン・WTI価格



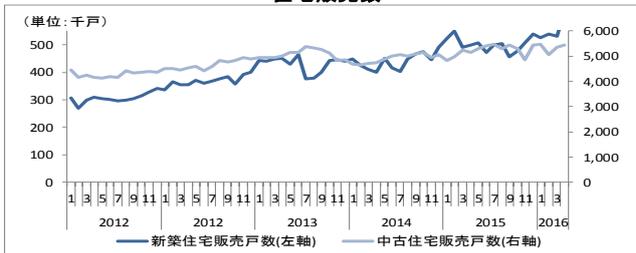
(米国エネルギー情報局)

#### 住宅着工件数(年率換算)



(米国商務省センサス局)

#### 住宅販売数



(米国商務省センサス局)

#### 小売売上高(前月比と項目別寄与度)

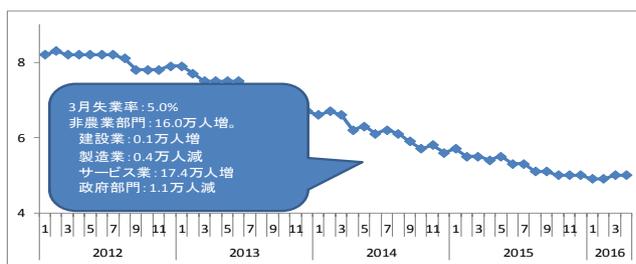
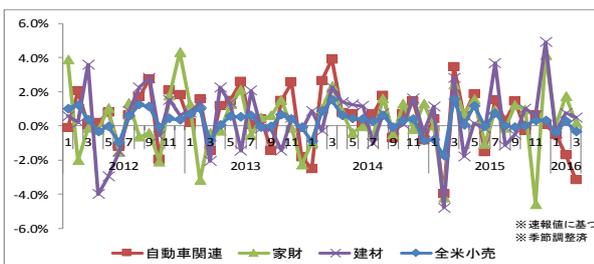


(米国商務省センサス局)

#### 自動車販売台数



(米国商務省経済統計局)



## 日本・アジア／米国間コンテナ貨物の荷動き動向について

(2016年5月〔復航〕速報値)

(公財) 日本海事センター 企画研究部

\* 文中の%は、寄与度とシェア以外で特に記載がない場合は、対前年同期比を表します。

## I. 復航（米国→アジア 18ヶ国・地域）の荷動き

- (1) 2016年5月の米国からアジア（18ヶ国・地域）へのコンテナ荷動き量は、2ヶ月連続の減少となる2.9%減の57.7万TEU。一方、1-5月の累計では前年同期比2.1%増の274.8万TEUと昨年実績を上回っている。
- (2) しかしながら、昨年の西岸港湾のスローダウンの影響がなくなった4-5月の累積を比較すると前年同期比3.3%減となっており、足下の荷動きは軟調傾向といえよう。
- (3) 国別で見ると、上位国では台湾（15.7%増）、ベトナム（54.2%増）は増加となったものの、日本（5.8%減）、中国（7.3%減）、韓国（12.7%減）などは減少。地域別ではASEAN（6.6%増）、南アジア（4.1%増）は増加。
- (4) 日本は、1位（2015年の年計ベースの各国・地域の品目別順位、以下同様）の「動物用飼料」（4.6%増）、2位の「肉及びその調整品」（3.7%増）、「家具及び家財道具」（5.4%増）などの上位品目は増加となったものの、5位の「紙、板紙類及びその製品」（12.8%減）が4ヶ月連続の減少、6位の「アルコール、飲料、タバコ等の嗜好品」（4.8%減）が2ヶ月連続の減少となったことなどにより、4ヶ月連続の減少となる5.8%減の6.6万TEU。
- (5) 最大の入荷国である中国は、2位の「動物用飼料」（37.1%減）が2ヶ月連続で大幅な減少、6位の「繊維及びその製品」（51.4%減）が4ヶ月連続で大幅な減少となったことなどにより、2ヶ月連続の減少となる7.3%減の24.6万TEU。香港は4ヶ月連続の減少となる0.9%減の2.9万TEU。
- (6) 韓国は、2位の「紙、板紙類及びその製品」（17.6%減）が2ヶ月連続の減少、4位の「家具及び家財道具」（19.1%減）が2ヶ月ぶりの減少、6位の「繊維及びその製品」（38.3%減）が6ヶ月連続の減少となったことなどにより、2ヶ月連続の減少となる12.7%減の5.0万TEU。
- (7) 台湾は、2位の「採油用の種及び油脂」（78.9%増）が2ヶ月連続で大幅な増加、3位の「動物用飼料」（94.5%増）が3ヶ月連続の増加、4位の「穀物及びその調整品」（69.7%増）が2ヶ月連続の増加となったことなどにより、15ヶ月ぶりの増加となる15.7%増の4.8万TEU。
- (8) ASEANは、タイ（17.9%増）、ベトナム（54.2%増）以外が減少となったものの、全体では5ヶ月連続の増加となる6.6%増の9.0万TEU。ASEAN最大の入荷国であるベトナムは、1位の「動物用飼料」（210.2%増）が4ヶ月連続で大幅な増加、2位の「繊維及びその製品」（17.7%増）が7ヶ月ぶりの増加、3位の「木材及びその製品」（6.2%増）が5ヶ月連続の増加となったことなどにより、5ヶ月連続の増加となる54.2%増の2.9万TEU。
- (9) 南アジアは、インド（1.2%減）、バングラデシュ（10.1%減）が減少となったものの、パキスタン（32.2%増）とスリランカ（22.0%増）の増加により、全体では8ヶ月連続の増加となる4.1%増の4.8万TEU。地域最大の入荷国であるインドは、2位の「繊維及びその製品」（7.9%減）が7ヶ月ぶりの減少、4位の「ニッケル、銅等の非鉄金属鉱」（55.6%減）が5ヶ月連続で大幅な減少、5位の「果物類」（54.3%減）が6ヶ月連続で大幅な減少となったことなどにより、2ヶ月連続の減少となる1.2%減の3.4万TEU。
- (10) 品目別では、「繊維及びその製品」（寄与度1.3%減）、「動物用飼料」（同0.4%減）などが減少の要因。ちなみに上位10品目以外の寄与度は5.6%減。

- (11) 船社別では、1位（2015年の年計ベースの船社別順位、以下同様）のEVERGREENが9ヶ月連続の減少となる5.1万TEU（20.2%減）、2位のMSCが2ヶ月ぶりの増加となる5.5万TEU（29.8%増）、3位のMAERSKが6ヶ月連続の増加となる6.6万TEU（37.3%増）。日本船社ではNYKが2ヶ月連続の減少となる3.4万TEU（11.8%減）、K LINEが4ヶ月連続の減少となる3.5万TEU（0.4%減）、MOLが5ヶ月連続の増加となる3.3万TEU（13.5%増）。

表-1 2016年5月：揚国・地域別荷動き

国・地域	復航				
	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	シェア (%)	1-5月の 累計(TEU)	前年同期比 (%)
<b>18ヶ国・地域 合計</b>	<b>576,701</b>	<b>▲2.9</b>	<b>100.0</b>	<b>2,747,864</b>	<b>2.1</b>
日本	65,840	▲5.8	11.4	324,521	▲1.5
韓国	49,776	▲12.7	8.6	263,472	▲2.4
台湾	48,007	15.7	8.6	200,724	▲5.6
<b>中国+香港 計</b>	<b>275,115</b>	<b>▲6.6</b>	<b>47.7</b>	<b>1,262,131</b>	<b>0.9</b>
中国	246,299	▲7.3	42.7	1,141,608	1.8
香港	28,816	▲0.9	5.0	120,522	▲6.8
マカオ	24	▲75.7	0.0	198	▲50.5
<b>ASEAN 計</b>	<b>90,198</b>	<b>6.6</b>	<b>15.6</b>	<b>468,468</b>	<b>6.8</b>
シンガポール	10,262	▲11.5	1.8	50,443	▲6.5
フィリピン	8,591	▲16.1	1.5	49,407	▲2.5
マレーシア	7,103	▲22.9	1.2	41,451	▲6.4
インドネシア	16,931	▲7.2	2.9	114,313	11.2
タイ	15,757	17.9	2.7	79,526	6.0
ベトナム	28,963	54.2	5.0	116,584	16.5
カンボジア	2,128	▲7.3	0.4	11,362	20.2
ミャンマー	464	▲48.0	0.1	5,383	147.6
<b>南アジア 計</b>	<b>47,741</b>	<b>4.1</b>	<b>8.3</b>	<b>228,350</b>	<b>20.0</b>
スリランカ	1,906	22.0	0.3	8,958	69.8
バングラデシュ	2,516	▲10.1	0.4	15,655	87.8
パキスタン	9,209	32.2	1.6	42,571	23.6
インド	34,110	▲1.2	5.9	161,166	13.3

(注) 集計対象は、日本、韓国、台湾、中国、香港、マカオの他、ASEANのうちシンガポール、フィリピン、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの8ヶ国、南アジアではインド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュの4ヶ国、合計18ヶ国・地域を対象としている。また、速報値ベースでの発表のため、後に若干の修正が加わる場合がある。

## II. 復航の品目別荷動き

- (1) 復航荷動き量を品目別にみると、荷動きを牽引している「紙、板紙類及びその製品」は2ヶ月ぶりの増加となる11.9万TEU（1.4%増）。
- (2) 「動物用飼料」は2ヶ月連続の減少となる5.2万TEU（4.9%減）
- (3) 「木材及びその製品」は5ヶ月連続の増加となる4.1万TEU（18.3%増）。
- (4) 「家具及び家財道具」は5ヶ月連続の増加となる2.7万TEU（8.9%増）。
- (5) 「繊維及びその製品」は6ヶ月連続で大幅な減少となる2.3万TEU（24.2%減）。

表-2 復航:2016年5月の品目別荷動き(上位10品目)

品目名	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	寄与度 (%)	シェア (%)
1. 紙、板紙類及びその製品	119,469	1.4	0.3	20.7
2. 動物用飼料	51,740	▲4.9	▲0.4	9.0
3. 木材及びその製品	40,906	18.3	1.1	7.1
4. 家具及び家財道具	26,799	8.9	0.4	4.6
5. 繊維及びその製品	23,493	▲24.2	▲1.3	4.1
6. 肉及びその調整品	21,380	17.2	0.5	3.7
7. 金属スクラップ	20,739	35.2	0.9	3.6
8. 果物類	16,627	49.8	0.9	2.9
9. レジン等の合成樹脂	16,282	6.2	0.2	2.8
10. 野菜及び種苗類	14,170	7.8	0.2	2.5

### Ⅲ. コンテナ運賃の動向

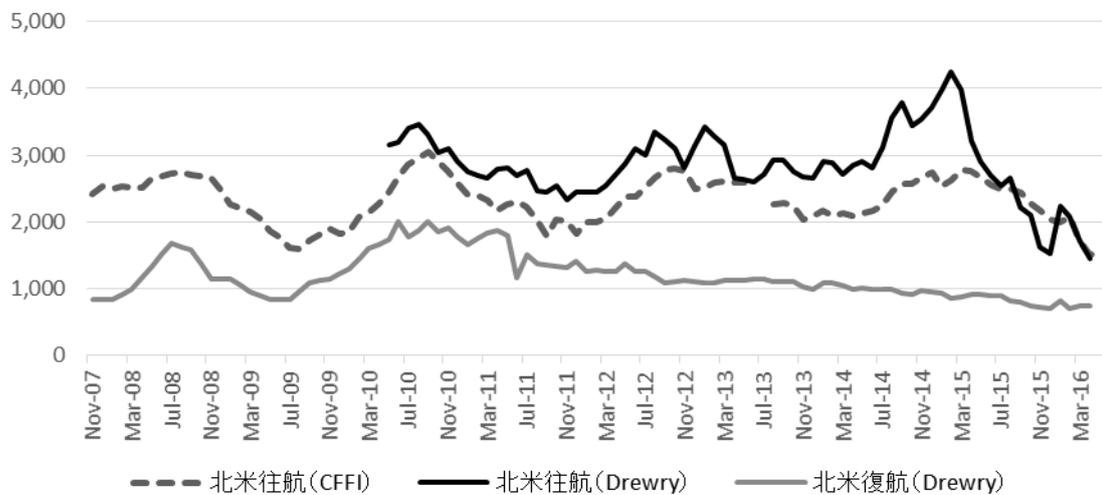
(1) 北米往航：

運賃は2016年初の修復で一時上昇したものの3月以降低水準での横ばいが続く。

(2) 北米復航：

Drewryによると運賃（ニューヨーク→塩田間）は14年7月以降下落傾向を示し、16年4月は740ドル/TEU。

図-1 北米航路における運賃指数の推移（単位：ドル/TEU）



参考資料

表－3 米国内地域別(西岸／東岸／ガルフ)荷動きの構成比の推移

米国内地域 集計年(月)	往 航			復 航		
	西岸揚 (%)	東岸揚 (%)	ガルフ揚 (%)	西岸積 (%)	東岸積 (%)	ガルフ積 (%)
2012年	69.9	28.0	2.1	65.3	32.0	2.7
2013年	69.6	28.3	2.1	64.8	32.4	2.8
2014年	68.4	29.3	2.3	62.7	34.0	3.3
2015年1月	60.1	36.2	3.7	53.0	42.0	5.0
2月	60.8	35.9	3.3	58.5	37.1	4.3
3月	65.6	32.0	2.5	56.9	38.6	4.5
4月	65.2	31.5	3.3	58.3	37.6	4.1
5月	65.1	31.9	3.0	60.1	35.5	4.5
6月	64.8	32.8	2.4	58.0	38.6	3.4
7月	64.0	33.3	2.7	60.9	35.3	3.8
8月	67.1	30.5	2.4	63.1	33.7	3.3
9月	64.9	32.5	2.7	57.9	38.1	4.0
10月	64.3	33.3	2.4	60.6	36.1	3.4
11月	66.8	30.8	2.3	59.0	37.5	3.5
12月	64.7	32.1	3.2	59.3	36.2	4.5
2016年1月	65.8	31.4	2.7	56.9	38.9	4.2
2月	64.1	33.0	2.9	59.8	35.9	4.3
3月	60.9	36.2	2.9	60.3	35.4	4.4
4月	65.6	31.5	2.9	60.7	35.4	4.0
5月	65.8	31.6	2.6	58.7	37.3	4.0

表－4 復航:船社別輸送量シェア(%)

順位	復航船社名	2013年	2014年	2015年	2016年1-5月	最近の推移
1	EVERGREEN	8.83	9.31	9.55	8.71	9ヶ月連続の減少
2	MSC	9.05	8.76	8.61	9.28	2ヶ月ぶりの増加
3	MAERSK	9.84	9.89	8.41	10.60	6ヶ月連続の増加
4	CMA-CGM	6.17	6.01	7.70	7.80	2ヶ月連続の減少
5	HANJIN	7.59	7.13	7.65	6.73	4ヶ月連続の減少
6	NYK	4.75	5.70	6.78	6.45	2ヶ月連続の減少
7	APL/NOL	7.83	7.18	6.46	5.33	12ヶ月連続の減少
8	OOCL	5.65	5.85	6.28	6.53	2ヶ月連続の増加
9	K LINE	5.65	5.63	5.76	5.78	4ヶ月連続の減少
10	HYUNDAI	6.43	5.66	5.18	4.95	5ヶ月ぶりの減少
11	HAPAG-LLOYD	4.48	4.48	5.10	4.93	4ヶ月ぶりの増加
12	MOL	4.26	4.66	5.10	5.52	5ヶ月連続の増加
13	YANG MING	5.51	5.49	5.02	5.09	3ヶ月ぶりの減少
14	COSCO(N)	5.81	5.49	4.32	4.42	2ヶ月連続の減少
15	CHINA SHIPPING	3.89	3.65	2.97	2.11	3ヶ月連続の減少
	OTHERS	4.25	5.11	5.12	5.77	
	TOTAL	100.00	100.00	100.00	100.00	

(注) : 単位は%。順位は2015年を基準とした。

## (参考) 荷動きに関連する米国の経済指標・動向

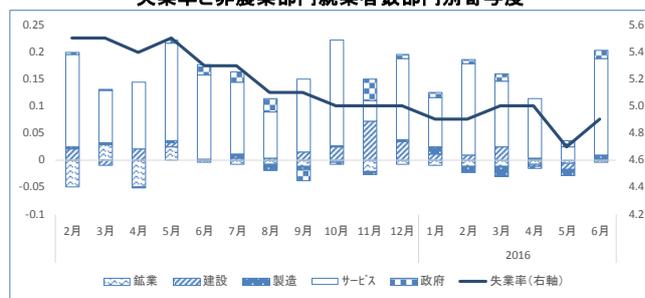
### 2016年7月作成 米国経済:回復基調を維持するも不安材料有り

- ◆2016年第1四半期GDP(確定値)は1.1%に上方修正。民間投資(住宅除く)および純輸出が上方修正される一方で、個人消費が下方修正された。
- ◆6月の失業率は3か月ぶりに0.2ポイント上昇し4.9%に。非農業部門全体では28.7万人雇用増。鉱業はマイナスに。
- ◆2014年12月以降、鉱工業生産指数及び設備稼働率は下降基調が続き、回復の兆しが見られない。
- ◆ガソリンおよび先行指標であるWTI価格は2014年8月以降急落していたが、2016年3月を底に上昇に転じている。
- ◆2016年5月の住宅着工件数は微増。許可件数は2か月ぶりのマイナスに。新築住宅販売は2か月ぶりのマイナス、中古住宅販売は2か月連続のプラスに。
- ◆5月の小売売上高は前月比0.5%増で2か月連続のプラス。住宅・建設関連は3か月連続のマイナスに。
- ◆2014年10月28日から10月29日に開催された連邦公開市場委員会(FOMC)の定例会で量的緩和(QE3)修了決定。15年12月15-16日の会合でゼロ金利解除決定。1~5月は金利据置。次回FOMC定例会は7月26-27日。

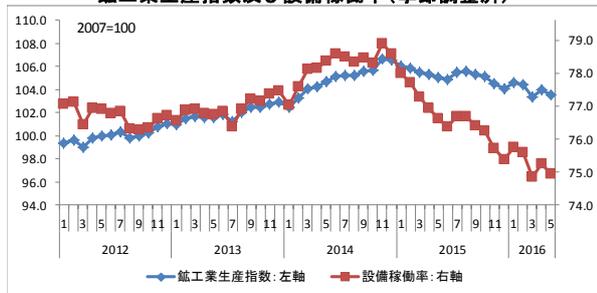
#### GDP成長率



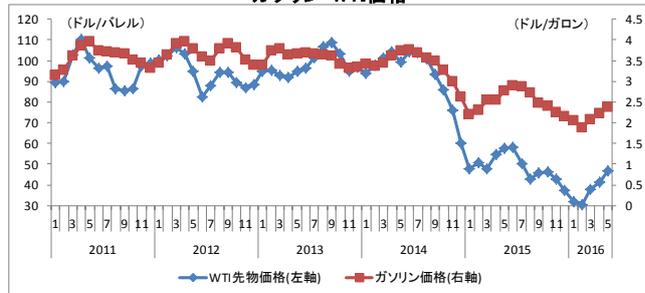
#### 失業率と非農業部門就業者数部門別寄与度



#### 鉱工業生産指数及び設備稼働率(季節調整済)



#### ガソリン・WTI価格



#### 住宅着工件数(年率換算)



#### 住宅販売数



#### 小売売上高(前月比と項目別寄与度)



#### 自動車販売台数

